



<定点把握感染症>

疾患名	全国	山形県			山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積(県) 第1~15週
	第14週	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(46)			(10)			(10)			(4)			(9)			(13)			
インフルエンザ	7227 1.46	149 3.24	151 3.28	▲	19 1.90	19 1.90		34 3.40	26 2.60	▼	7 1.75			58 6.44	59 6.56	▲	31 2.38	47 3.62	▲	12102
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(6)			(7)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	1393 0.44	5 0.17	6 0.20	▲		1 0.17					1 0.33	1 0.33		4 0.67	2 0.33	▼		2 0.25	▲	91
咽頭結膜熱	870 0.28	10 0.33	6 0.20	▼	2 0.33	1 0.17		2 0.29	2 0.29		1 0.33			3 0.50	2 0.33	▼	2 0.25	1 0.13	▼	174
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6140 1.94	90 3.00	113 3.77	▲	10 1.67	20 3.33		16 2.29	25 3.57	▲	14 ◎4.67	9 3.00	▼	44 ◎7.33	40 ◎6.67	▼	6 0.75	19 2.38	▲	1735
感染性胃腸炎	16909 5.35	169 5.63	222 7.40	▲	32 5.33	53 8.83		36 5.14	34 4.86	▼	8 2.67	7 2.33	▼	43 7.17	72 12.00	▲	50 6.25	56 7.00	▲	3084
水痘	1014 0.32	7 0.23	9 0.30	▲	1 0.17	2 0.33			2 0.29	▲	2 0.67			3 0.50	5 0.83	▲	1 0.13		▼	182
手足口病	538 0.17	9 0.30	5 0.17	▼	6 1.00						3 1.00	5 1.67	▲							99
伝染性紅斑	1782 0.56	29 0.97	42 1.40	▲	11 1.83	31 ◎5.17		5 0.71	2 0.29	▼	6 ◎2.00	4 ◎1.33	▼	3 0.50	3 0.50		4 0.50	2 0.25	▼	755
突発性発しん	1247 0.39	13 0.43	14 0.47	▲	3 0.50			2 0.29	3 0.43	▲	1 0.33	3 1.00	▲	4 0.67	4 0.67		3 0.38	4 0.50	▲	222
ヘルパンギーナ	117 0.04																			11
流行性耳下腺炎	257 0.08		1 0.03	▲		1 0.17														20
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(1)			(3)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	5 0.01																			
流行性角結膜炎	432 0.62																			51
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(2)			(2)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	248 0.52	6 0.60	1 0.10	▼	6 3.00	1 0.50														29
クラミジア肺炎	4 0.01																			
マイコプラズマ肺炎	44 0.09		1 0.10	▲		1 0.50														30
細菌性髄膜炎	14 0.03																			2
無菌性髄膜炎	8 0.02																			2

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数
※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

<全数把握感染症>

疾患名	報告数	備考
結核	2(最上1、庄内1)	※内、第14週追加報告1人。
E型肝炎	1(庄内1)	
百日咳	3(山形市1、村山2)	※内、第13週追加報告1人、第14週追加報告1人。ワクチン接種歴:4回 2人、1回 1人。
風しん	1(山形市1)	
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1(庄内1)	※第13週追加報告分。

<通信欄>

※インフルエンザの迅速キットによる型別は、A型142件、B型8件、不明1件です。集団発生の報告は、庄内保健所管内2件(小学校:1、福祉施設:1)です。
※トピックスで伝染性紅斑について掲載しています。

※警報・注意報の基準値

疾患	警報レベル		注意報レベル
	開始	終息	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

※ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ		2	6	6	13	8	11	4	11	20	10	25	6	6	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	4	4	12	3											151
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	2	2	1											6
咽頭結膜熱		1	4			1									6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			6	3	24	16	16	9	8	8	7	12	1	3	113
感染性胃腸炎	6	27	45	26	17	24	14	8	9	16	6	18		6	222
水痘		1				2	3	2	1						9
手足口病				1	1		2		1						5
伝染性紅斑			2	4	3	7	7	5	3	4	5		1	1	42
突発性発しん		4	9	1											14
ヘルパンギーナ															
流行性耳下腺炎										1					1

< 平成31年2月 月報 >

2019年3月20日 発行

疾患名		山形県		山形市保健所		村山保健所		最上保健所		置賜保健所		庄内保健所		累積(県)
		1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	
STD定点	(定点医療機関数)	(10)				(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数	10	17			8	12				1	2	4	27
	定点当り	1.00	1.70			2.00	3.00				0.50	0.67	1.33	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	7	12			3	4		4	4	4			19
	定点当り	0.70	1.20			0.75	1.00		4.00	2.00	2.00			
尖圭コンジローマ	報告数	3	1			3						1		4
	定点当り	0.30	0.10			0.75						0.33		
淋菌感染症	報告数	3	3			2	1				1	1	1	6
	定点当り	0.30	0.30			0.50	0.25				0.50	0.33	0.33	
基幹定点	(定点医療機関数)	(10)				(4)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	7	5			1			2			6	3	12
	定点当り	0.70	0.50			0.25			2.00			2.00	1.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	19	25			13	11	1		2	1	3	13	44
	定点当り	1.90	2.50			3.25	2.75	1.00		1.00	0.50	1.00	4.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数													
	定点当り													

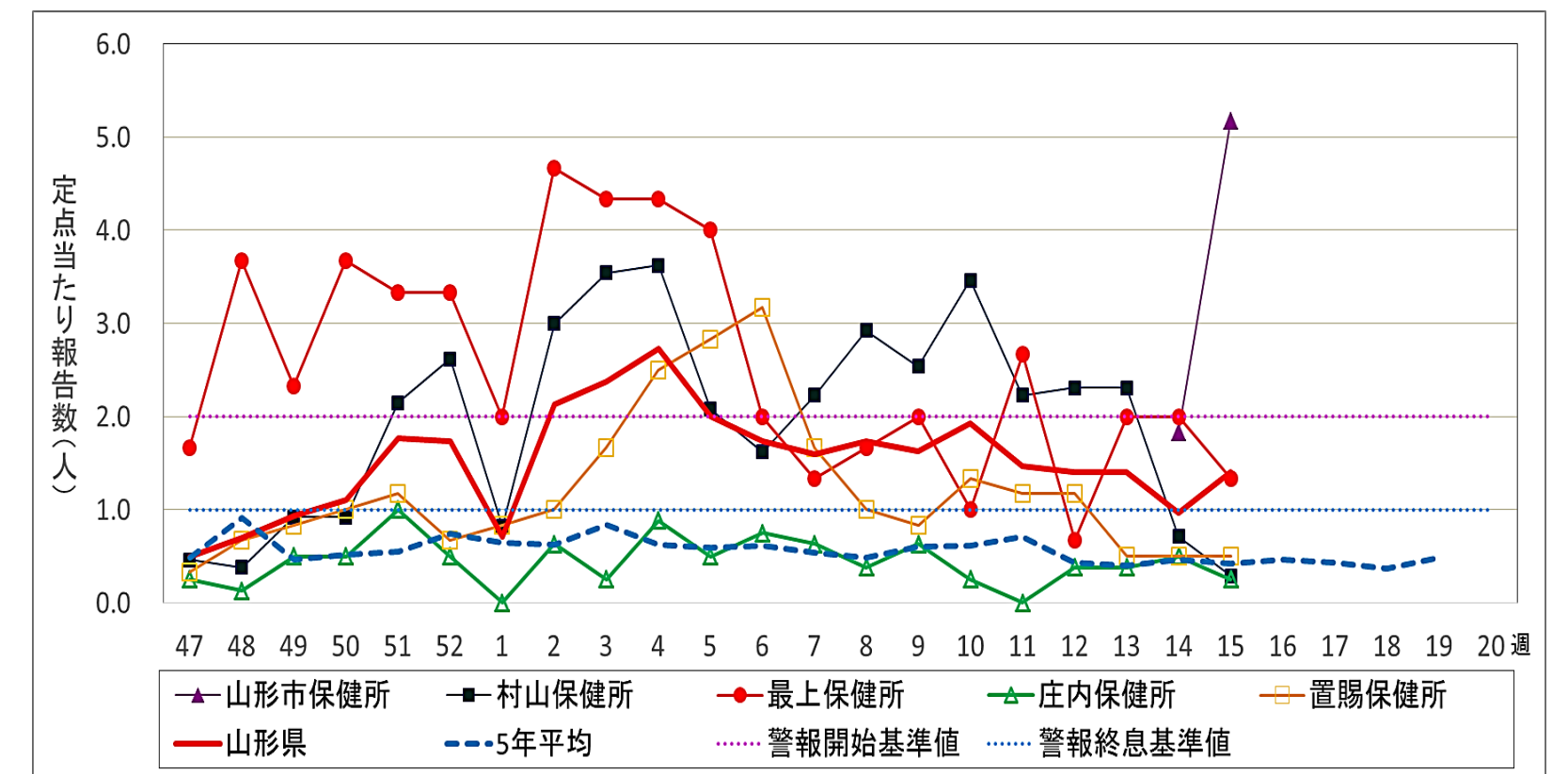
< トピックス >

伝染性紅斑(りんご病)情報

伝染性紅斑の定点当たり報告数が、山形市保健所、最上保健所で警報レベルとなっています。

- ・警報開始基準値:2人 警報終息基準値:1人
- ・第15週 定点当たり報告数(山形県:1.40人)
山形市:5.17人 村山:0.29人 最上:1.33人
置賜:0.50人 庄内:0.25人

・定点当たり報告数の推移(山形県)



・伝染性紅斑とは

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19に感染することによっておこる感染症です。典型例では両頬がリンゴのように赤くなることから、「りんご病」とも呼ばれます。

《症状》10～20日の潜伏期の後、両頬に鮮明な赤い発疹が現れ、続いて手足にもレース様の発疹が現れます。なお、頬に発疹が現れる前に、風邪の様な症状がみられ、この時期に感染力が最も強くなります。

その後、発疹が出て、伝染性紅斑と診断された頃には感染力はほぼなくなっています。予後は通常良好ですが、妊婦が感染した場合、胎児水腫や流産を起こすことがあるので注意が必要です。

《予防法》伝染性紅斑は、感染力のある時期には特徴的な症状を示さないため、日頃からの手洗い・うがい重要です。

